

# 東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

**本を読むことが、読書なのではありません。**  
**自分の心のなかに失いたくない言葉の蓄え場所をつくりだすのが、読書です。**  
 ～ 長田弘著『読書からはじまる』(NHK出版)より～

## 1. あなたの運のパターンはどのタイプ？

VOGUE GIRL で大人気の占い師“しいたけさん”をご存じでしょうか。優しくやわらかい口調ながらピタリと当たる占いが好評で、その活躍は占い師という枠を超え、多くのご著書を出版されています。

今回紹介します『しいたけの小さな開運BOOK』は「カラー心理学」に基づく運のパターンについて解説された本で、本書に掲載されている全18色それぞれの設問に答え、当てはまる項目が一番多かった色を「自分のカラー」として、基本性格や運の開き方を診断していきます。実際に診断してみるとなかなか面白いです。「基本性格」では妙に納得してしまったり、「運の開き方」では意外なことが開運につながっていたり、自分を知る一つの術としてとても楽しめます。ちなみに「自分のカラー」は1色とは限らず、どなたでも3色くらいは当てはまるようで、この色の組み合わせが「自分らしい性格」をつくっているのだとか。

さあ、あなたのカラーは何色でしょうか。もし「最近ついてない…」と感じている方がいらしたら、しいたけさんのご著書で運を引き寄せてみませんか？ 本の後半には読むだけでフツと心が軽くなるような、しいたけさんからのメッセージも寄せられています。本全体が優しさに包まれた、温かい雰囲気の本です。



しいたけの小さな開運BOOK  
 (しいたけ 著/マガジンハウス)

## 2. 日本の古典をよむ⑩『東海道中膝栗毛』

『東海道中膝栗毛』一懐かしいタイトルですね。皆さん、どなたが書かれた作品か覚えていらっしゃいますか？ 正解は十返舎一九(じっぺんしゃいっく)。本名を重田貞一(しげたさだかず)といい、江戸時代後期に人気を博した戯作者(げさくしゃ)の一人です。当時『東海道中膝栗毛』は爆発的な人気を誇り、一九の文才もさることながら、主人公の弥次郎兵衛(やしろうべえ)と北八(きたはち)が人気の立役者であったことは間違いのないでしょう。

『東海道中膝栗毛』には通称「弥次・北(やしきた)」と呼ばれる主人公二人の旅の様子(江戸～お伊勢参り～京都・大坂)が描かれています。道中で巻き込まれる様々な騒動が可笑しく、物語が完結した後も、当時多くの読者から続編を望む声寄せられたそうです。一九は『続膝栗毛』として金比羅・宮島参詣、木曾街道、善光寺参り、上州草津温泉など数々の作品を発表し、これらは実に20年にも渡り書き続けられました。

物語の随所には宿場町の様子や庶民の生活文化が描かれており、これは当時の風習や実情を知る貴重な史料として高い評価を受けています。また、物語の中で弥次・北(やしきた)の二人は旅に出る前に全私財を処分し、風呂敷包み一つの身となりますが、当時、多くの読者がこのスタイルに憧れたそうです。



日本の古典をよむ(18)  
 世間胸算用・万の文反古・東海道中膝栗毛  
 (神保五彌ほか 校訂・訳/小学館)

## 3. 美味しそうな給食だけど…!?

管理栄養士でいらっしゃる幕内秀夫さんのご著書『変な給食』。本書を出版するきっかけとなったのは、小学生の娘さんが持ち帰った給食の献立表でした。ハンバーガーやピザ、菓子パンなどまるでファーストフード店のようなメニューが並び献立表に驚いた幕内さんは、「成長期の子どもたちの健康を改めて多くの人々に考えてもらいたい」という思いから、本書を出版されたそうです。出版後の反響は大きく、「給食の現状に驚いた」「うちの学校の給食をなんとかしてほしい」「たまに出てきた変な給食を取り上げているだけではないか」「子どもたちが喜んで食べているならいいのでは？」など読者から様々な声寄せられ、その反響の大きさから『もっと変な給食』という続編も出版されています。本を開くと美味しそうな給食の写真が並んでいますが、これらは幕内さんから見ると少し違和感のある給食なのだそうです(ポテトチップスという献立もあります)。この本を読みながら、ふと「自分の食生活は大丈夫？」と不安を覚えました。掲載されている給食の献立は決して他人事ではなく、自分も似たような献立を食べているのではないかと。

忙しい毎日ですと忘れてしまいがちですが、私たちの体は日々口に入っている食べ物で作られています。本書を眺めながら、毎日の食事や栄養バランスについて考えてみませんか？ 改めて食事の大切さに気づかされる1冊です。



変な給食  
 (幕内秀夫 著/ブクマン社)

## ◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

人に対して敬礼を欠いてはならない。  
 されどただ形式だけの敬礼は、往々相手の感情を害し、  
 かえって礼せざるに劣るものである。

【『渋沢栄一訓言集』・処事と接物】

最高の礼儀とは「心のこもったありがとう」のことで。口先だけのお礼では「お礼を言わない」ことよりも失礼にあたりますし、心がこもっていないことがなんとなく相手に伝わってしまいます。たとえ上手な言葉が並べられなくても、誠実な感謝の気持ちというのは相手の心に届くものです。

※格言は『渋沢栄一 100の訓言』 渋澤健一著/日本経済新聞出版社 p.180より転載



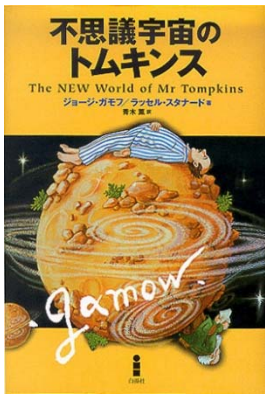
## ◆ 国家試験問題を解いてみよう ◆

**看護師** 小児期における消化器の特徴で正しいのはどれか。

1. 新生児期は胃内容物が食道に逆流しやすい。
2. 乳児期のリパーゼの活性は成人と同程度である。
3. ラクターゼの活性は1歳以降急速に高まる。
4. アミラーゼの活性は12～13歳で成人と同程度になる。
5. 出生直後の腸内細菌叢は母親の腸内細菌叢の構成と同一である。

※ 問題はメディックメディア『QB 看護師国家試験問題解説 2022 付録「第110回看護師国家試験問題&解説」p.21より出題(解答は裏面をご覧ください)





## 『不思議宇宙のトムキンス』ジョージ・ガモフ/ラッセル・スタナード 著/青木 薫 訳

管理栄養学部 助手 高木智弘

**不思議宇宙のトムキンス**  
(ジョージ・ガモフ/ラッセル・スタナード 著 / 青木 薫 訳 / 白鳥社)

深谷キャンパスの学生の皆さん、こんにちは。さて、今回紹介する図書は、ジョージ・ガモフ/ラッセル・スタナード(著)の『不思議宇宙のトムキンス』です。私が高校生時代に物理の授業を受けていた時、担当教員が毎授業トムキンスの話をおもしろおかしく話していたことをよく覚えています。物理学の入門書として幅広く知られているらしいのですが、もともとは専門知識のない方々向けに出版された本です。主人公であるトムキンスが夢の中の不思議な町や宇宙を探検するという内容で、短編形式で展開されます。トムキンスと不思議な世界を探検しているうちに、相対性理論、量子力学など、物理学が学べてしまう楽しい科学的な本です。

トムキンスは平凡な銀行員で、休日に今日一日をどう過ごすか考えていたところ、とある小さな案内に目をとめます。それは町の大学で開催される物理学の講演会で、そこでアインシュタインの相対性理論の話を知っているうちに眠くなってきたトムキンスは、不思議な夢を見ることになります。冒頭の「のろのろ町」というお話では、光の速さがなんと時速30kmである夢の中の町に来てしまいます。そこでトムキンスは、色々と奇妙な体験をすることになるのですが、目の前で「自転車で乗っている人が進行方向にぺしゃんこに潰れている」、「自分が自転車で乗ると、通りや建物は細く、歩行者はやせ細っていく」などが起き凄く驚きます。そのときトムキンスは相対性理論のことを思い出してこの現象のことを理解していきます。さらに、「いつも列車に乗っている人が孫よりも若い」など、とても不思議なことが起こりますが、これらの現象は大学での講演内容で説明できることだったので。その他にも、「閉じた宇宙のトムキンス」というお話では、宇宙の直径を10kmにしたらどうなる?といった内容があり、難しい物理学の内容を例え話で楽しく読むことができます。また、ところどころに数式が登場する箇所もありますが、難しい部分は飛ばして読んでも十分楽しめる構成となっていると思います(実際に自分もほとんど分かりません笑)。

大学教員となった今では本よりも論文を多く読むことが多くなってしまいましたが、今回の寄稿文を執筆するにあたり、また読書の魅力を再認識することができました。皆さんも、機会があれば医療系以外の本を読んでみてはいかがでしょうか?

### 開館20周年記念 フランソワ・ポンポン展 動物を愛した彫刻家



フランスで絶大な人気を誇り、日本にも多くのファンを有する動物彫刻の代表作家フランソワ・ポンポン(1855-1933)。なめらかで可愛らしい動物たちの姿に思わず「かわいい!」と声を上げてしまいます。ポンポンの作品の魅力は何といっても、シンプルで洗練されたフォルムです。「影のない彫刻」とも言われています。

フランソワ・ポンポンは1855年にフランスのソーリュエという町で生まれ、20歳でパリに出て、ロダンなど著名な彫刻家の下で働きながら彫刻を学びました。彼は遅咲きの芸術家で、67歳の時にサロン・ドートンヌで発表した実物大の石膏彫刻《シロクマ》(1922年)が評価され、一躍脚光を浴びます。その後亡くなるまで、ポンポンは数々の動物彫刻を生み出し、活躍しました。彼の独自のスタイルを確立したこの《シロクマ》は現在パリのオルセー美術館に展示され、いまでも私たちを魅了し続けています。

今回、群馬県立館林美術館では開館20周年を記念して、日本初となるフランソワ・ポンポンの回顧展を開催します。国内で唯一まとまったポンポンの作品や関連資料を収蔵する同美術館は、今展のためにディジョン美術館やフランソワ・ポンポン美術館、オルセー美術館から借用した作品群に加え、同美術館がもつ関連資料150点余りを一挙に公開いたします。美術館の敷地内には、ポンポンのアトリエを再構成した別館「彫刻家のアトリエ」も構えています。ぜひ、そちらもお楽しみください。

2022年は《シロクマ》発表から100周年という記念の年です。見ているだけで笑みがこぼれるポンポンの作品たちに皆さんも会いに行ってみませんか?



写真(上): フランソワ・ポンポン《シロクマ》1923-1933年 群馬県立館林美術館 写真(下): フランソワ・ポンポン《ワシミズク》1927-1930年 パリ、オルセー美術館 © RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / A. Morin / Gallimard / distributed by AMF 写真提供: 群馬県立館林美術館 (画像の転載ならびにコピー禁止) 展覧会場: 群馬県立館林美術館(〒374-0076 群馬県館林市日向町2003) 会期: 2021年11月23日(火・祝)~2022年1月26日(水) 開館時間: 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日: 月曜日(ただし1月10日は開館)、12月29日(水)~1月3日(月)、11日(火) 観覧料: 一般900円/大高生450円 \*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料 群馬県立館林美術館HP: <http://www.gmat.pref.gunma.jp/> 展覧会公式HP: <https://pompon.jp/>

### ◆図書館からのお知らせ◆

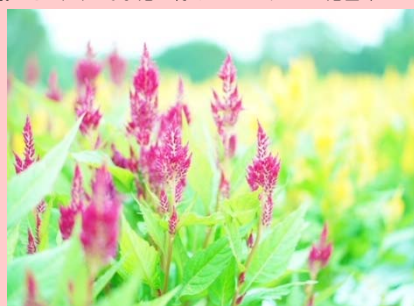


10/4(月)よりラーニングコモンズがプレオープンいたしました。日当たりが良く、心地よい時間を過ごせる空間になっているかと存じます。すでに授業等でご使用いただき、学生の皆さんからも好評いただいております。ぜひ今後も、多彩な学修の場としてラーニングコモンズをご活用ください。皆様のご利用をお待ちしております。

### 鶏頭(ケイトウ)

赤いベルベットのような花が雉鶏のトサカに似ているところから「鶏頭(ケイトウ)」という名前が

付けられました。英語では「コックスコム」と呼ぶそうで、フランスやドイツでも「トサカ」を意味する花の名前が付けられています。ケイトウは(大きく分けると)トサカケイトウ・クルメケイトウ・ウモウケイトウ・ヤリケイトウの4種類があります。以前は赤色が主流でしたが、現在はピンク、イエロー、グリーンなど様々な色のパリエーションが楽しめるそうです。花言葉は「風変わり」「おしゃべり」「色褪せぬ恋」。その個性的な花の様子からこれらの花言葉が添えられました。ケイトウがもつ温かくてふんわりとした雰囲気は、眺めているだけで私たちに癒してくれそうです。秋を彩る鮮やかな花々です。



### 国家試験問題(表面)の正解は1.

※解説はメディックメディア『QB 看護師国家試験問題解説2022付録「第110回看護師国家試験問題&解説」p.105参照。